

スイス2回目視察シリーズ ③

スムフィットの聖ベネディクト教会

Saint Benedict Chapel, Sumvitg

設計者 ペーター・ツムトール Peter Zumthor

竣工 1988年 訪問日 2003年9月9日

建築に携わる者として、一度は見ておくべき有名な建物。

民家の間を下から登って見上げると、山の傾斜面に立つ建物の大きさに驚いた。アララト山にたどり着いたノアの箱舟がこちらに向かってくるように感じた。ツムトール氏が世界に対して何かを語りかけている。

教会前の山道を登って上から見下ろすと、一枚の木の葉がこの地に舞い降りたようなシンプルな教会堂が見えた。見れば見るほどに自然と一体になった。ペーター・ツムトールを有名にしたこの建物は今でも目に焼き付いている。

外壁は杉の木板張りでこげ茶色。数段の石段を上って小さい入口から中に入る。

内部は舟底を思い出させ、会堂全体をぐるりと回った高窓からの光で明るくモダンな空間。

天井も床の張り方も斜めの線が葉脈を思わせるデザイン。高い天井から床まで細身の木の柱が何本も連続して通っているので垂直方向に意識が向く。目をおろせば、聖卓と会衆ベンチは平らな板を組み合わせた簡潔な水平方向。





村の教会



民家の間から



ノアの箱舟



十字架塔



山道側



とがった部分が山の頂上側 小さい入口



入口から聖壇を見る



葉脈のような天井と高窓、天井を支える細身の柱



天井からつり下がった照明



左側が入口



聖壇に黄色の花が供えられていて、この教会を愛する村人のぬくもりを感じた。



聖 卓



会 衆 席



山道の上から



教会から村を見下ろす



山道を下る



車道から山道を上る



雪崩で崩壊した元の教会

ジュネーブ日本倶楽部（JCG）の会報「BONJOUR！れまん」（岸井牧師が書いているコラムの2014.11月号）に掲載されたものです。

ハチローは岸井牧師の腹話術芸名です。

*本記事は、ジュネーブ日本倶楽部（JCG）広報編集委員会の了解のもと掲載しています。

ハチローのご存知ですか？

■第128回■ 木の葉の形の教会

スイスの田舎の山の中の小さな教会ですが、日本の建築雑誌にも紹介されて、日本からも参観者が訪れる教会があります。その場所はグラウビュンデン州（Graubünden、フランス語ではグリゾン州）のスムフィット（Sumvitg）。

地図でいうとスイス中央のオーベルアルプ峠から東へ約20km、表ラインに沿ったこの小さな町の北側の山中です。町を東西に抜ける国道19号線で街の西端から、この聖ベネディクト教会へ上る道を示す道標が見つかったら、あとは細く屈折した山道を登ります。

当初、1260年から1270年にかけて建設された古い教会があったのですが、約30度の傾斜を持つ山の斜面にあったため1984年に雪崩のために崩壊しました。4年後の1988年に同じ場所に再建されましたが、この時設計にあたったのが、スイスの建築家ペーター・ツムツール（Peter Zumthor）でした。

教会の平面図といえば1枚の木の葉型、尖った葉先が山の頂上を向いていて、その先端近くの左側に小さな入口の扉が開いています。

鉄筋コンクリートを使わずに総木製、外に立つ鐘の塔も木製の柱です。教会の外壁は、小さな木っ端を貼りつめたような仕上がりで、窓は上方、天井を支える高いところに高窓の形で広がっています。

入口から入ると、そこから木の床が平たい葉の根元の方向に広がります。そしてその先に小さい聖壇と、その上に小さな十字架。



床板も天井も、まさに木の葉の葉脈を思わせる構造です。

すべてが木製であることから自然の中にいる温かみを肌で感じることができます。神の創造のぬくもりとも言えましょう。

ペーター・ツムツールは、1943年にバーゼルで生まれ、家具製作を職業とする父親から木工の技術指導を受け、ニューヨークのプラット・インスティテュートで学んだ後、1979年から建築家として独立しました。

2008年には日本で高松宮記念世界文化賞を受賞したほか、2009年には建築界のノーベル賞といわれるプリツカー賞を受賞しています。その作品が都会から遙かに離れた田舎に多いのもこの人の特長です。

（岸井敏）

写真は、聖ベネディクト教会の外観（左下の小さな出っ張りが入り口）とその内部